

## 1 総括についての評価

- ・学校は概ね適切に自己評価を行っている。
- ・目標や課題に対して取り組みをおこなっており、成果がでている。
- ・生徒指導面について日々生徒と関わるを深めることで改善されている。学校の雰囲気はよくなっている。

## 2 年度目標ごとの評価

## 年度目標:【学力の向上】

- ①言語活動の取り組みを学校全体で取り入れ、平成28年度の全国学力・学習状況調査における「普通の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を40%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ②平成27年度末には、校区小学校と校種や教科を越えた連携を図り、指導法について研修し、相互の授業参観を実施する。(マネジメント改革関連)
- ③平成27年度のテスト前学習に参加する生徒の割合を15%にする。(カリキュラム改革関連)

- ・3学期に実施した、学校教育アンケートの結果、「授業で生徒間で話し合う活動をよく行っていた」の項目において、肯定的な意見が66%となっており、教員が授業に対して工夫をしていることがよくわかる。
- ・地域小学校とは、交流授業を行ったり、教職員総会を開催し、各教科ごとに分科会を開き、指導法やカリキュラムについて協議していることは、評価できる。
- ・学力差のある生徒に、習熟度別学習や家庭学習の推進、放課後におけるテスト前学習など工夫しながら取り組んでいることがわかる。

## 年度目標:【道徳心・社会性の育成】

- ①平成27年度末の校内調査において遅刻生徒の数を前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)
- ②平成28年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ③平成28年度の全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を35%以上にする。(ガバナンス改革関連)

- ・教員による日々の指導の結果、遅刻する生徒数が減少している。家庭と連携を図り、根気よく指導したことは、大変評価できる。ピア・サポート活動、福祉体験学習、職場体験学習、日本文化体験学習などの取り組みをすることで感性豊かな生徒の育成を図っている。学校教育アンケートの結果、「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目で肯定的な意見が92%となり取り組みの成果であることがわかる。
- ・「今住んでいる地域行事に参加している。」の項目では、肯定的な意見は41%で目標には達しているが、社会意識を高めるために、積極的な地域参加を行うための取り組みをする必要がある。

## 年度目標:【健康・体力の保持増進】

- ①平成27年度末の校内アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ②平成27年度末の校内アンケートにおける「体調面での自己管理ができています」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ③検診で分かった症状の受診率100%をめざす。(カリキュラム改革関連)

- ・検診で分かった症状の受診率は、目標に達せず34.9%であったため、今後、勧告の方法等を工夫していく。「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目で肯定的な意見は82%で、「体調面での自己管理ができています」の項目で肯定的な意見は78%であった。クリーンアップ大作戦や生徒会ボランティア清掃の取り組みを通じて、生徒の意識を高めていく必要がある。生徒の自己管理に関しては、塾を含めた習い事で生活のリズムが崩れがちな生徒のアドバイスを継続的に行っていく必要がある。

## 3 今後の学校運営についての意見

- ・学校協議会では、数年かけて蓄積したアンケート等のデータを経年比較と分析を行い、課題を見つけ、それを解決していく方策を協議していくことを期待する。
- ・生徒が自ら課題を発見し、解決するために、思考し、判断し、表現する力を習得する工夫としかけを期待する。
- ・数値目標だけではなく、教員が教育実践のなかで観察・評価したことも考慮して、学校運営を行うことを期待する。